

全国一般愛知地本

＝発行＝
 全労連・全国一般労働組合愛知地方本部＝煤本國治
 住所：名古屋市中区沢下町9-3
 労働会館本館405

執行委員長の年頭挨拶

2025 謹賀新年

2024年は、物価高騰で私たちの暮らしは厳しい状況におかれ、一人当たりの名目賃金の推移は1991年を100とすると2020

年で僅か100、過去30年間にわたり我が国の一人当たりの賃金は横ばいの状況であり、生活が成り立たないのが現状です。

一方政治の世界では衆議院議員選挙において裏金問題で少数与党になった自民党は、国会論戦で「個人・企業団体献金のどこが悪い」と開き直り禁止することを考えようとはしません。

2025春闘は、物価高騰に負けない大幅賃上げ獲得すること、その為の十分な要求討議

2025年新春旗開き



地本の旗開きが10日(金)に開催されました。当日は朝から雪模様で大変冷え込み、開催が懸念されましたが、15名の参加。

今回は今までとちょっと違って、アットホームな趣向で労働会館東館5階のテラスで開催されました。女性部が筑前煮、湯豆腐、鉄板焼き等の暖かいものを提供してくれました。午後から買い出しや調理で準備し、参加者に振る舞われました。

愛労連から佐賀事務局次長が挨拶に駆けつけてくれました。予定通り午後6時30分に開始。2時間があっという間に過ぎました。

後半では、各支部・個人からの挨拶もあり、相互理解がなされました。

去年は”組合旗”を忘れましたが今回はしっかりと会場に貼り付けました。

(記 T)

と要求獲得のためストライキを念頭に入れた論議を進める必要があります。そして悪政・悪法改悪を阻止し、国民の「いのちと平和・雇用と暮らし」を守る政治への転換、全国一律最低賃金1500円の実現や、労働者の権利向上など要求実現へ、そして団結を強化し、要求と仲間増やしを旺盛にすすめます。

それと共に、アクリル争議の早期解決と、解雇無効の判決を勝ち取ったものの現場復帰が出来ず自宅待機

第1回評議委員会

今春闘に向けて、愛知地本の第一回評議委員会を1月20日に開催しました。

全国一般中

執行委員長 煤本國治

を命じられているという労働相談で組合に加入した愛知シユタイナー学園の右田さんの現場復帰に向け奮闘していきます。

央本部では12月14日・15日に春闘討論集会が持たれ「春闘アピール」(次頁掲載)が採択されています。

評議委員会は委任も含めて11名の参加で成立。委員長から2月の臨時大会は中止したい旨の説明後に、大会以後からの経過、24年末一時金の闘い、そして中間財政報告を書記長がしました。その後、出席支部からの報告などを受けて委員会は終了しました。

(記 執行部)

2025国民春闘アピール

いま、労働組合の主体的なたたかいで大幅賃上げを勝ち取ることが多くの国民から求められています。そのためには、労働組合がさらに強くなること、つまり仲間を増やすことが喫緊の課題と言えます。

24春闘では、ストライキ権も背景にした粘り強い交渉で、30年来の賃上げ水準を勝ち取りました。しかし、社会全体では人手不足などを背景とした企業主導の

「正規・男性・若手」に隔たった賃上げが広がっています。今必要なことは、労働組合が主体となつて、女性労働者・非正規雇用労働者・再雇用労働者、公務労働者をはじめ、すべての労働者が時間働けば人間らしく暮らせる賃金と労働条件・生活水準を手に入れ、賃金が上がりに続ける社会を実現することです。

歴史的な物価高騰による生活苦や削られる年金・社会保障が、国民全体を貧困に追いやっています。一方、大企業や富裕層は資産を増やし続け、格差は広がりに広がっています。政府は大軍拡・増税、大阪・関西万博に象徴される税金のムダ遣いを続けながら、国民の貧困打開に背を向け続けています。

こうしたなか、自公政権が自民党裏金問題や統一教会との癒着の全容解明に背を向ける姿に、国民の怒りは頂点に達しました。総選挙で、自民党・公明党の与党は279あ

った議席を215に激減させた敗北を喫しました。これは、私たち労働組合をはじめとした多くの市民の声を引き寄せた結果です。今後は自公政権が数の力で悪法を強行することができなくなります。国民の声や私たち労働組合の運動で、政治を前向きに動かす可能性が広がっています。

2024年ノーベル平和賞を日本被団協が受賞しました。これは被爆者の体験を訴え続けていること、そのメッセージを継承していることが評価されたものです。来年の被爆80年に向けて、被爆体験・戦争体験のメッセージを継承する取り組みをいっそう強めましょう。

米大統領選挙では、現政権以上にイスラエル擁護の姿勢を強調し、自国第一主義を掲げ、人権をないがしろにする共和党トランプ前大統領が当選しました。中国・ロシアを中心とした軍事ブロック化の加速、日本をはじめとした

同盟国の軍事負担増、世界的な軍事的緊張の高まりも予想されます。今こそ、「ロシアはウクライナから撤退し停戦せよ」「イスラエル・ガザへのジェノサイドをやめる」の声を大きく広げ、平和で安定した世界をめざしましょう。

国連女性差別撤廃委員会、日本政府に対してジェンダー平等を進めるよう促す「総括所見」を発表しました。その中で、「選択的夫婦別姓」「個人通報制度を定めた選択議定書への批准」「経済・労働分野における男女の賃金・処遇格差」など多くの面で取り組みが遅れている日本政府を厳しく批判しました。ジェンダー平等を日本でも主流化していくための取り組みをいっそう強めましょう。

こうした情勢の下、12月14・15日、全労連・全国一般25国民春闘討論集会在開催され、職場からさまざまな分野での労働組合のたたかいが報告されました。これまでに以上「全員参加の組合活動4つの基

本」の実践をすすめ、組織拡大・強化と要求実現を運動の両輪として、おいにたたかいをすすめていきましょう。
2024年12月15日

全労連・全国一般労働組合 第37回拡大中央委員会

今後の予定

1月26日(日)愛労連第71回臨時大会

1月30日(木)愛労連労働相談全体会議

2月6日(木)日本アクリル支部都労委・証人尋問

2月11日(火)第46回トヨタ総行動

2月22日(土)アクリル争議支援共闘会議



編集後記

2月28日(金)地本執行委員会
新年明けましておめでとうございます！正月三が日はみなさんどのように過ごされましたか？9連休という職場も多かったのでは。幸いにもお天気に恵まれたので助かりましたが、一部地方では大雪に見舞われて大変だった様です。今年も、どんな年になるか。何となく、世界的な激動が予感されま